

継続事業評価シート

評価実施日 令和4年3月31日

令和3年度(5年目)

事業コード	6	事業名	財務会計活用のためのネットde記帳加入促進			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	潟上市商工会	担当者名	太田 美咲	総轄者名	安田 幸博	施策コード	3	施策名	経営目標実現のためのネットde記帳促進		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

決算時期の集中業務を避けるため、業務の分散化による平準化を図る必要があった。

2. 事業のねらい

旧事業名「ネットde記帳進捗管理表の効果的な活用による平準化の推進」でスタートし、4年目で概ね平準化が図られた。そのため、5年目には現事業名に変更し、適正な数値管理をするためにネットde記帳の加入促進を強化する。

3. これまでの評価結果	過年度	H29	—	H30	B	R1	A	R2	A
--------------	-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

・進捗状況が見える化することで、記帳業務の平準化が進み、決算期への業務集中を概ね避けることができた。
・簡易診断レポートの定期的な提供により、月次処理の適正化が図られ、経営の改善にもつながった。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

4年間の取組を通して記帳の平準化が概ね達成された。5年目の取組として財務会計活用による解決策の提案支援を行うため、新会員を中心にネットde記帳への加入促進を行った。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
・継続して実施してきた毎月の経営支援員会議において各事業所の進捗状況確認及び帳簿の早期提出に向けた改善策を協議した。 ・財務会計データの活用による解決策の提案を行うため、新会員を中心にネットde記帳への加入促進を行った。	・進捗管理表の活用により、帳簿の早期提出につながり平準化が概ね図られた。また、これにより決算期の業務集中を軽減することができた。 ・適正な数値管理及び簡易診断レポート提供による経営改善等、ネットde記帳導入メリットを説明し、5年間継続して新規委託先を獲得した。	a

6. 評価指標と実績 達成度:a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	ネットde記帳の促進					項目						項目						
	年度	H29	H30	R1	R2		R3	年度	H29	H30	R1		R2	R3	年度	H29	H30	R1
目標	3	3	4	4	4	目標						目標						
実績	3	2	4	5	7	実績						実績						
達成率	100%	66%	100%	125%	175%	達成率						達成率						
達成度	a	c	a	a	a	達成度						達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

・月次処理進捗管理表の活用により、各事業者の進捗状況を確認することで、記帳業務の平準化が概ね達成できた。
・新会員や飛込決算事業者に対してネットde記帳導入メリットを説明し、促進することで継続的に新規委託先を獲得した。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	a
---	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

・事業実施前までは担当者のみが各事業者の進捗状況を把握していたが、進捗管理表を活用し、帳簿の提出状況や月次処理が見える化したことで早期対応が可能となり、記帳の平準化が概ね達成できた。
・適正な数値管理及び簡易診断レポート提供による経営改善等、ネットde記帳導入メリットを説明し、新規委託先を獲得した。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

・5年間を通じて進捗状況を管理することで業務の平準化を概ね達成でき、決算期の業務集中を避けることができた。
・決算期の業務集中を避けられるようになり、超過勤務時間及び手当を毎年低減できた。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
--	---

・月次進捗管理表の活用により、進捗管理及び帳簿提出期限の目標設定をすることで、提出頻度が向上し、記帳業務の平準化が概ね達成できた。
・新会員等に対してネットde記帳の利用促進を行い、継続的に新規委託先を獲得できた。

3. 課題

・税務申告のための記帳業務から経営改善に向けた財務会計活用型支援への移行
・タイムリーな数値管理による財務課題の早期発見及び解決策の提案

4. 今後の対応方針(改善点)

・記帳代行から事業者自らが入力・管理する自計化への移行推進により、事業者の数値管理に対する意識向上を図る。
・財務会計データを活用した各事業者の課題解決支援を職員間のチームにより行う。